

上峰町文化財調査報告書第34集

上峰町内遺跡確認調査Ⅲ

上峰町内における開発行為に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書
—平成11年度～平成15年度—

2012年3月

上峰町教育委員会

上峰町文化財調査報告書第34集

上峰町内遺跡確認調査Ⅲ

上峰町内における開発行為に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書
—平成11年度～平成15年度—



2012年3月

上峰町教育委員会

序

従来、上峰町は「遺跡の宝庫」と言われてきました。北部の脊振山系、その南麓から派生し南北に延びる洪積世丘陵と谷、さらに有明海へと続く沖積平野と変化に富んだ地形を含む町域には、いたるところに先人たちの暮らしの足跡が刻み込まれています。教育委員会では、こうした人々の暮らしの足跡、歴史的資産を保存活用し、将来へ継承していくために、開発と文化財の保護との調整に努めてまいりました。

近世以来の純農村集落の面影を色濃く残してきた上峰町は、昭和40年代後半から「農工併進のまちづくり」を理念に掲げ、工業団地の整備による大規模工場の誘致、農業基盤整備事業の実施とまちづくりを進めてまいりました。町の中央を国道34号線が東西に横断し、ここから、福岡県久留米市へは県道が通るという恵まれた交通環境に位置しており、佐賀市や鳥栖市、久留米市へも最適な通勤圏にあるところから、近年人口も着実に伸び、ベッドタウンとして発展してまいりました。これに伴い、各種商業施設、事業所等の町内進出も相次ぎ、上峰町は平成元年の町制施行以来、この20年間で近代的な田園都市へと大きく変貌を遂げました。

本書は、上峰町内の埋蔵文化財の保護と開発との調整を図るために上峰町が平成元年度より国庫補助事業の適用を受け実施してまいりました町内遺跡確認調査の報告書であります。この開発に伴う町内遺跡確認調査の実施によって多くの遺跡が破壊、消滅をまぬかれ保護されました。この報告書を学術的な資料として、また今後の埋蔵文化財保護と開発との調整を図るための資料として役立てていただければ幸いです。

なお、この町内遺跡確認調査にあたって、ご指導、ご協力をいただきました佐賀県教育委員会、開発事業主体者をはじめ、関係各位に対し深く感謝申し上げます。

平成24年3月

上峰町教育委員会
教育長 吉田 茂

例 言

1. 本書は、平成元年度から国庫補助事業として、上峰町内で実施してきた町内遺跡埋蔵文化財確認調査のうち平成 11 年度から平成 15 年度に実施した埋蔵文化財確認調査の報告書である。
2. 本書は、平成 23 年度の国庫補助事業により、上峰町教育委員会が作成、刊行したものである。
3. 町内遺跡確認調査は、上峰町教育委員会が実施した。
4. 現場での発掘作業は、重機により表土剥ぎを行い、調査員の指示により発掘作業員が精査し、遺構・遺物の有無を確認した。
5. 現場での図面、写真による記録作業は、調査員が行った。
6. 遺構などの現場における写真撮影及び出土遺物の写真撮影は、調査員が行った。
7. 調査後の出土遺物、記録類の簡単な整理作業は、当該年度にそれぞれ実施した。
8. 本書中の挿図・写真図版などの作成作業は、調査員の指示により、整理作業員が行った。
9. 本書の執筆・編集は、原田大介が行った。
10. 本報告書に係る確認調査で出土した全ての遺物及び現場で作成した図面・写真・その他の記録類は、上峰町教育委員会で保管している。

凡 例

1. 「確認調査」・「試掘調査」の用語については、広くは遺跡の範囲内外を基準に「確認調査」・「試掘調査」と区分して取り扱われているが、本書では「確認調査」と統一し表記している。
2. 確認調査番号については、年度ごとに平成をあらわす「H」、年度を表す「数字」、ハイフンの後に一連の番号を付して、調査番号としている。本文中、各年度調査位置図・各年度実施確認調査一覧表・各年度の報文中の調査番号は一級する。

例) 平成 11 年度に 2 番目に実施した〇〇遺跡確認調査 H11-2 〇〇遺跡

3. 本文・挿図中の方位については、全て座標北を基準としている。
4. ここ数年来の市町村合併により、上峰町周辺の町村も合併が進み町村名が変更になっているが、本書では、一部を除き、旧来の名称を使用している。
5. 「調査後の措置」については、本文中の標記は最終結果を記載したが、各年度の一覧表中の標記は当該年度末時点での状況を記載している。

調査組織

平成11年度

調査主体	上峰町教育委員会		
調査事務局	総括	福島 毅	上峰町教育委員会 教育長職務代理者 (平成11年4月1日～5月31日)
		古賀 一守	〃 教育長(平成11年6月1日～)
	事務主任	福島 毅	〃 教育課長
	経費執行	原田 大介	〃 文化係長
		樋口 佳子	〃 文化係員
調査組織	調査員	原田 大介	〃 文化係長
調査指導	佐賀県教育委員会		

平成12年度

調査主体	上峰町教育委員会		
調査事務局	総括	古賀 一守	上峰町教育委員会 教育長 (平成12年4月1日～8月8日)
		馬場 英孝	〃 教育長職務代理者 (平成12年8月9日～8月20日)
		古賀 一守	〃 教育長(平成12年8月21日～)
	事務主任	江口 正光	〃 教育課長
	経費執行	原田 大介	〃 文化係長
		樋口 佳子	〃 文化係員
調査組織	調査員	原田 大介	〃 文化係長
調査指導	佐賀県教育委員会		

平成13年度

調査主体	上峰町教育委員会		
調査事務局	総括	古賀 一守	上峰町教育委員会 教育長
	事務主任	江口 正光	〃 教育課長
	経費執行	原田 大介	〃 文化係長
		樋口 佳子	〃 文化係員
調査組織	調査員	原田 大介	〃 文化係長
調査指導	佐賀県教育委員会		

平成 14 年度

調査主体	上峰町教育委員会			
調査事務局	総括	八谷日出夫	上峰町教育委員会	教育長
	事務主任	江口正光	〃	教育課長
	経費執行	原田大介	〃	文化係長
		樋口佳子	〃	文化係員
調査組織	調査員	原田大介	〃	文化係長
調査指導	佐賀県教育委員会			

平成 15 年度

調査主体	上峰町教育委員会			
調査事務局	総括	八谷日出夫	上峰町教育委員会	教育長
	事務主任	八谷勝憲	〃	教育課長
	経費執行	原田大介	〃	文化係長
		樋口佳子	〃	文化係員
調査組織	調査員	原田大介	〃	文化係長
調査指導	佐賀県教育委員会			

整理作業参加者

江崎 愛子 島 美保子（平成 23 年度 整理作業員）

目次

序	
例言・凡例	
調査組織・整理作業参加者	
I. 上峰町の位置と環境	1
1. 上峰町の位置	1
2. 歴史的環境	1
II. 調査の概要	6
1. 調査に至る経緯	6
2. 調査の方法	6
III. 平成11年度の調査	9
H11-1 西峰遺跡	12
H11-2 周知外 井手口地区	13
H11-3 周知外 寺家一地区	14
H11-4 樫寺遺跡(1)	15
H11-5・6 樫寺遺跡(2)	16
H11-7 一本谷遺跡	17
H11-8 周知外 船石地区(1)	18
H11-9 周知外 船石地区(2)	19
H11-10 周知外 船石地区(3)	20
H11-11 周知外 下津毛地区	21
H11-12 周知外 下坊所地区	22
H11-13 周知外 八枚地区	23
IV. 平成12年度の調査	25
H12-1 周知外 上坊所地区(1)	29
H12-2 周知外 上坊所地区(2)	30
H12-3 周知外 下坊所地区	31
H12-4 周知外 下津毛地区	32
H12-5・9 三上遺跡	33
H12-6 五本谷遺跡	34
H12-7 西峰遺跡	35
H12-8 周知外 上米多地区(1)	36
H12-10 周知外 上米多地区(2)	37
H12-11 周知外 上米多地区(3)	38
H12-12 外記遺跡	39
H12-13 切通遺跡	40
H12-14 周知外 上坊所地区(3)	41
H12-15 周知外 東前牟田地区	42
H12-16 周知外 上坊所地区(4)	44

V. 平成 13 年度の調査	45
H13 - 1 大塚遺跡	48
H13 - 2 三上遺跡	50
H13 - 3 西峰遺跡	51
H13 - 4 目達原古墳群	52
H13 - 5 周知外 上米多地区	54
H13 - 6 周知外 下坊所地区	55
VI. 平成 14 年度の調査	57
H14 - 1 屋形原遺跡(1)	61
H14 - 2 目達原古墳群	62
H14 - 3 大塚遺跡(1)	63
H14 - 4・5 三上遺跡(1)	64
H14 - 6 屋形原遺跡(2)	65
H14 - 7 西峰遺跡	66
H14 - 8 北畠遺跡	67
H14 - 9 坊所一本谷遺跡	68
H14 - 10 周知外 下津毛地区	69
H14 - 11・12・14 大塚遺跡(2)	70
H14 - 13 大塚遺跡(3)	71
H14 - 15 三上遺跡(2)	72
VII. 平成 15 年度の調査	73
H15 - 1 目達原古墳群	76
H15 - 2 外記遺跡(1)	77
H15 - 3 周知外 下米多地区	78
H15 - 4 杉寺遺跡	79
H15 - 5 四本谷遺跡	80
H15 - 6 周知外 下津毛地区	81
H15 - 7 外記遺跡(2)	82

挿 図 目 次

Fig. 1	上峰町町内遺跡及び周辺遺跡 (1/50,000)	2
2	上峰町遺跡地図 (1/50,000)	7
3	平成 11 年度 確認調査地位置図 (1/50,000)	11
4	西峰遺跡 (1/5,000)	12
5	周知外 井手口地区 (1/5,000)	13
6	周知外 寺家一地区 (1/5,000)	14
7	樫寺遺跡(1) (1/5,000)	15
8	樫寺遺跡(2) (1/5,000)	16
9	一本谷遺跡 (1/5,000)	17
10	周知外 船石地区(1) (1/5,000)	18
11	周知外 船石地区(2) (1/5,000)	19
12	周知外 船石地区(3) (1/5,000)	20
13	周知外 下津毛地区 (1/5,000)	21
14	周知外 下坊所地区 (1/5,000)	22
15	周知外 八枚地区 (1/5,000)	23
16	平成 12 年度 確認調査地位置図 (1/50,000)	28
17	周知外 上坊所地区(1) (1/5,000)	29
18	周知外 上坊所地区(2) (1/5,000)	30
19	周知外 下坊所地区 (1/5,000)	31
20	周知外 下津毛地区 (1/5,000)	32
21	三上遺跡 (1/5,000)	33
22	五本谷遺跡 (1/5,000)	34
23	西峰遺跡 (1/5,000)	35
24	周知外 上米多地区(1) (1/5,000)	36
25	周知外 上米多地区(2) (1/5,000)	37
26	周知外 上米多地区(3) (1/5,000)	38
27	外記遺跡 (1/5,000)	39
28	切通遺跡 (1/5,000)	40
29	周知外 上坊所地区(3) (1/5,000)	41
30	周知外 東前牟田地区 (1/5,000)	42
31	周知外 上坊所地区(4) (1/5,000)	44
32	平成 13 年度 確認調査地位置図 (1/50,000)	47
33	大塚遺跡 (1/5,000)	48
34	三上遺跡 (1/5,000)	50
35	西峰遺跡 (1/5,000)	51

Fig. 36	目達原古墳群 (1/5,000)	52
37	周知外 上米多地区 (1/5,000)	54
38	周知外 下坊所地区 (1/5,000)	55
39	平成 14 年度 確認調査地位置図 (1/50,000)	60
40	屋形原遺跡(1) (1/5,000)	61
41	目達原古墳群 (1/5,000)	62
42	大塚遺跡(1) (1/5,000)	63
43	三上遺跡(1) (1/5,000)	64
44	屋形原遺跡(2) (1/5,000)	65
45	西峰遺跡 (1/5,000)	66
46	北島遺跡 (1/5,000)	67
47	坊所一本谷遺跡 (1/5,000)	68
48	周知外 下津毛地区 (1/5,000)	69
49	大塚遺跡(2) (1/5,000)	70
50	大塚遺跡(3) (1/5,000)	71
51	三上遺跡(2) (1/5,000)	72
52	平成 15 年度 確認調査地位置図 (1/50,000)	75
53	目達原古墳群 (1/5,000)	76
54	外記遺跡(1) (1/5,000)	77
55	周知外 下米多地区 (1/5,000)	78
56	杉寺遺跡 (1/5,000)	79
57	四本谷遺跡 (1/5,000)	80
58	周知外 下津毛地区 (1/5,000)	81
59	外記遺跡(2) (1/5,000)	82

表 目 次

Tab. 1	平成 11 年度 町内遺跡確認調査一覧表	10
2	平成 12 年度 町内遺跡確認調査一覧表	26・27
3	平成 13 年度 町内遺跡確認調査一覧表	46
4	平成 14 年度 町内遺跡確認調査一覧表	58・59
5	平成 15 年度 町内遺跡確認調査一覧表	74
	報告書抄録	

図 版 目 次

PL. 1	西峰遺跡	12
2	周知外 井手口地区	13
3	周知外 寺家一地区	14
4	樫寺遺跡(1)	15
5	樫寺遺跡(2)	16
6	一本谷遺跡	17
7	周知外 船石地区(1)	18
8	周知外 船石地区(2)	19
9	周知外 船石地区(3)	20
10	周知外 下津毛地区	21
11	周知外 下坊所地区	22
12	周知外 八枚地区	23
13	周知外 上坊所地区(1)	29
14	周知外 上坊所地区(2)	30
15	周知外 下坊所地区	31
16	周知外 下津毛地区	32
17	三上遺跡	33
18	五本谷遺跡	34
19	西峰遺跡	35
20	周知外 上來多地区(1)	36
21	周知外 上來多地区(2)	37
22	周知外 上來多地区(3)	38
23	外記遺跡	39
24	切通遺跡	40
25	周知外 上坊所地区(3)	41
26	周知外 東前牟田地区	43
27	周知外 東前牟田地区	43
28	周知外 上坊所地区(4)	44
29	大塚遺跡	49
30	大塚遺跡	49
31	三上遺跡	50
32	西峰遺跡	51
33	目達原古墳群	53
34	目達原古墳群	53
35	周知外 上來多地区	54

PL. 36	周知外 下坊所地区	55
37	屋形原遺跡(1)	61
38	目達原古墳群	62
39	大塚遺跡(1)	63
40	三上遺跡(1)	64
41	屋形原遺跡(2)	65
42	西峰遺跡	66
43	北畠遺跡	67
44	坊所一本谷遺跡	68
45	周知外 下津毛地区	69
46	大塚遺跡(2)	70
47	大塚遺跡(3)	71
48	三上遺跡(2)	72
49	目達原古墳群	76
50	外記遺跡(1)	77
51	周知外 下米多地区	78
52	杉寺遺跡	79
53	四本谷遺跡	80
54	周知外 下津毛地区	81
65	外記遺跡(2)	82

I. 上峰町の位置と環境

1. 上峰町の位置 (Fig. 1)

佐賀県三養基郡上峰町は、佐賀県東部の穀倉地帯である佐賀平野のほぼ中央、三養基郡の西端に位置しており、東部は同郡みやき町(旧中原町・旧北茂安町)と、南部は同郡みやき町(旧三根町)と、西部は神埼郡吉野ヶ里町(旧東脊振村・旧三田川町)と境を接している。また、この神埼郡との境界は、古代以来の三根郡との郡界を踏襲しており、現在も町のほぼ中央を東西に横断する国道34号線付近の旧三田川町と境を接する地区は郡境と呼称されている。

鳥栖市から佐賀郡大和町に至る佐賀県東部には、北部に青嶺山地、その南麓に発達する洪積世丘陵、さらに南部には有明海へと続く沖積平野が展開するという、変化に富んだ地形が発達している。なかでも、山麓部から沖積平野部へ移行する部分に発達する洪積世丘陵は、山麓部に源を発し有明海へと南流する大小の河川によって浸食され北から南へ延びる舌状を呈した段丘を数多く形成している。そして、これらの段丘は古くから人々の生活の場として利用され、段丘上には数多くの遺跡が分布し、遺跡数、内容ともに県内でも有数の地域となっている。

そのようななか、南北に細長い町域をもつ上峰町においても、北部に山麓部、中央部に洪積世丘陵部、南部に沖積平野部と、この佐賀県東部の特徴的な地形が展開しており、とくに中央部に発達する洪積世丘陵地帯を中心に遺跡の分布が知られ、古くから「遺跡の宝庫」と呼ばれてきた。

2. 歴史的環境 (Fig. 1)

上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観すると、前述のとおり、山麓部から洪積世丘陵部におよぶ一帯が古くから人々の生活の舞台となっており、山麓部及び各段丘上には、現在、遺跡の存在が知られ、県内においてもくに弥生時代遺跡を中心に遺跡の分布密度が高い地域となっている。沖積地を望む丘陵部のほとんどが、各時代の集落あるいは墓域として占有され、とりわけ、弥生時代以降の遺跡を縄文時代以前の遺跡と比較すると、量的にも、質的にも爆発的に増加、充実する。銅鐸の鋳型を出土した鳥栖市安永田遺跡¹⁾、約400基の甕棺墓が検出された中原町短方遺跡²⁾、埋納された12本の銅矛を出土した北茂安町検見谷遺跡³⁾、甕棺墓から舶載鏡を出土した神埼郡東脊振村三津永田遺跡⁴⁾、近年の工業団地建設に先立つ調査で貴重な遺構、遺物が検出された神埼郡の神埼・三田川・東脊振の2町1村にまたがる吉野ヶ里遺跡⁵⁾ など多くの著名な集落遺跡、墳墓群が知られ弥生時代の「クニ」あるいは「ムラ」単位の集団の存在が想定されるに至っている。このようななか、南北約12km、東西約3kmと南北に細長い町域を持つ本町においても同様に、町の北部から中央部を占める洪積世段丘上に弥生時代を中心に各時代の遺跡が分布している。

先土器時代の遺跡についてみると、各段丘で層序が異なる本地域においては本格的な調査がなされていないのが現状で、断片的な遺物の出土、採取にとどまっている。町内では、平成4年度の県営農業基盤整備事業に伴う八藤遺跡の調査において細石刃1点とこの時期のものと考えられる石器類が少量出土しているが、これが発掘調査における主な出土例である⁶⁾。周辺地域では、神埼郡三田川町との境界に位置する二塚山丘陵の三田川町側からナイフ形石器の採取例が報告されている⁷⁾。また、平成5年度の県営農業基盤整備事業に伴う八藤遺跡下層における阿蘇4峠流域と埋没林に係る調査において、先土器時代の年代示標となっている始良-Tn火灰炭(AT)の含有ピークが、通常の丘陵上の埋蔵文化財調査において遺構検出面としている「地山」の表層を構成する黄褐色風積土層の最上部付近、アカホヤ含有層のやや下部にて検出されている⁸⁾。



1 上埦町	12 堀六本谷遺跡	24 坊所地跡	36 中塚町	47 西無水遺跡	神尾町
2 奥の宮古墳群	13 堀土壘跡	35 櫻寺遺跡	36 山田蔵寺遺出土地	47 北流安町	56 志波堀六本谷遺跡
3 二木山山城	14 八幡遺跡	26 杉寺遺跡	37 山田古墳群	48 宝鏡谷遺跡	57 伊勢塚前方後円墳
4 二木山古墳群	15 二塚山遺跡	27 坊所二本松遺跡	38 大塚古墳	49 宝鏡宮前方後円墳	58 馬郡遺跡
5 横西山南麓古墳群	16 五本谷遺跡	28 坊所三本松遺跡	39 八幡社遺跡	50 大塚古墳	東寺飯村
6 堀三本松遺跡	17 駒石遺跡	29 堀の塚古寺跡	40 寶塚遺跡	51 東尾崎出土遺跡	59 西石動古墳群
7 原形原古墳群	18 駒石南遺跡	30 西前本田遺跡	41 郷方遺跡	三枝町	60 磯崎古墳跡
8 谷塚古墳群	19 柳邊遺跡	31 末多地跡	42 郷方前方後円墳	52 本分貝塚	61 三津水跡遺跡
9 堀三本柳遺跡	20 一本谷遺跡	32 前車田遺跡	43 郷方原遺跡	三田川町	62 西石動遺跡
10 西野古墳群	21 堀堀一本谷遺跡	33 加茂橋遺集落跡	44 フノドン遺跡	33 吉野ヶ尾丘後遺跡群	63 北沢遺跡
11 新立古墳群	22 上のびのみ入屋遺蹟	34 江沼地跡	45 町西遺跡	54 下中社遺跡	64 宇上野寺跡
	23 日産原古墳群	35 一ノ橋遺集落跡	46 天神遺跡	55 下藤貝塚	65 横田遺跡

Fig. 1 上埦町町内遺跡及び周辺遺跡 (1/60,000)

縄文時代になると、中原町香田遺跡⁹や東春振村戦場ヶ谷遺跡¹⁰などが出現する。町内においても、これまで町北部の丘陵部から土器や石器が、耕作や先覚者の遺跡の表面観察などによって断片的に出土、採取されていたが、近年の上峰北部農業基盤整備事業に伴う発掘調査の結果、平成元年度の船石遺跡11区¹¹、平成2年度から5年度にわたり実施した八藤丘陵の調査¹²において、遺構や遺物がまとまって検出されており、今後の調査例の増加が期待されている。

弥生時代になると、遺跡の数や規模、その内容が飛躍的に増加、充実することは先に触れたが、早くから『魏志倭人伝』の「弥奴国」の所在地を佐賀平野東部、なかでも三美基郡西部の旧三根郡にあてるとの論考が行われてきたことは周知のことである。旧三根郡に所属する上峰町においても、丘陵部のほとんどがこの時期の遺跡が展開している。しかし、町の南部や中央部の米多地区、坊所地区の丘陵部は、中世以降集落として発達し、早くから宅地化が進み、本格的な発掘調査の例に乏しく、わずかに再開発に伴い部分的に小規模の発掘調査が行われているに過ぎず、遺跡の詳細について把握できていないのが現状である。これに対して、町北部の大字塚地区では、近年の工業団地建設や農業基盤整備事業など大型開発に伴い広範囲かつ大規模な発掘調査が実施され、各遺跡から当時の社会の様子を知るうえで貴重な資料が得られている。町内の代表的な遺跡としては、壘棺墓から細形銅剣や貝剣を出土した切通遺跡¹³、神埼郡東春振村、三田川町にまたがる、佐賀県東部中核工業団地の建設に伴い壘棺墓、土壇墓など約300基が調査され、船載鏡、小型倣製鏡をはじめとする貴重な副葬品を出土した二塚山遺跡¹⁴、佐賀県住宅供給公社の宅地造成に伴う調査で一集団の集落部分の全容が明らかになった一本谷遺跡¹⁵、地区運動公園整備に伴う調査で5世紀代の古墳とともに支石墓をはじめ多数の壘棺墓が検出された船石遺跡¹⁶などが知られている。また、この度の県営農業基盤整備事業に伴う調査においても、船石遺跡¹⁷、船石南遺跡¹⁸、八藤遺跡¹⁹から住居址や壘棺墓などが多数検出されている。

古墳時代になると、この地域にも首長墓が出現する。初頭の時期には中原町姫方原遺跡²⁰、上峰町五本谷遺跡²¹などにおいて方形周溝墓が営まれ、やがて中期にかけて鳥栖市から佐賀郡大町に至る山麓や丘陵部に大型の前方後円墳が出現する。鳥栖市銅塚古墳²²、中原町姫方古墳²³、上峰町西南部から神埼郡三田川町にまたがる目達原古墳群²⁴、神埼郡神埼町伊勢塚古墳²⁵、佐賀市鏡子塚古墳²⁶、佐賀郡大町船塚古墳²⁷など佐賀県東部の代表的な古墳が築かれるようになる。さらに後期になると、現在長崎自動車道や県道佐賀川久保・鳥栖線が通る山麓部から丘陵部にまたがる一帯に小円墳を中心とした古墳が多数築かれ、それぞれが山麓部の根根や谷あるいは丘陵を単位として後期古墳群を形成している。

後の『肥前風土記』にみえる三根郡・郷に属する当時の上峰町一帯は、『古事記』、『国造本紀』などの記事によれば応神天皇の曾孫にあたる「」なる人物が初代の米多国造として中央より下向した地域に比定され、その中心は、町南西部の米多地区から神埼郡三田川町東部の一帯にあったと推定されている。町内の主要な古墳としては、都紀女加を始祖とする米多国造一族の墳墓として、5世紀代後半に形成されたと考えられる上のびゅう塚（現在、陵墓参考地「都紀女加王墓」宮内庁管轄）をはじめ無名塚、大塚、古稻荷塚、稲荷塚などの前方後円墳ほかからなる目達原古墳群²⁸が知られていたが、戦前の陸軍飛行場建設の際に、唯一上のびゅう塚を残し他の古墳は簡単な発掘調査の後破壊されている。また町の北部の古墳としては、同じく5世紀代の古墳で、蛇行状鉄剣、蛇行状鉄矛を出土した船石神宮境内の船石古墳1～3号墳²⁹が知られている。古墳時代後期の古墳としては、町北部の鎮西山の周辺山麓部から高位段丘にかけて、小円墳を主体とする谷渡、青柳、新立、奥の院、鎮西山麓、墨形原などの古墳群が点在している。

一方、この時期の集落は、神埼郡三田川町下中杖遺跡³⁰、同郡東春振村下石動遺跡³¹などが知られているが、

弥生時代集落に比べ、遺跡そのものの数も少なく、調査例も少なくいまだに実態が明らかになっていないのが現状である。町内の遺跡をみても、当時の政治的中心であったと考えられる町南部の米多地区周辺における本格的な発掘調査の例がなく、今後の大きな課題といえる。

奈良・平安時代遺跡としては、三田川町下中杖遺跡、東谷振村辛上廃寺跡³¹、霊仙寺跡³²などが著名であるが、この時期の遺跡についてもまともな調査例が少なく、実態はあまり解明されていない。当時の遺構として大規模なものは、佐賀平野に敷かれた条里制の遺構が上げられ、早くから地名などから条里の復元が試みられ、現在ではほとんどの条里が復元されている。また、大宰府から肥前国府へ通じる官道の調査も進み、近年部分的な発掘調査が行われている。

町内では埴土埴跡³³や塔の塚廃寺跡³⁴などが奈良時代の遺跡として戦前から注目されている。町北部の埴地区の八藤丘陵と二塚山丘陵の間の谷底平野を遮断する形で築かれた埴土埴跡は、版築工法により築かれた福岡県の水城に似た施設＝「小水城」で、その築造目的が、大宰府の防衛施設であるとする説、灌漑用水確保のための溜池の堤防であるとする説など議論がなされてきたが、平成2年度からの土埴の東方に接する八藤丘陵の調査において、土埴東端から一直線に八藤丘陵を東方へ横断する道路側溝状の遺構が検出され³⁵、その性格付けにあらたに古代道の存在が想定されることとなった。また町南西部を占める目達原丘陵の南端部に位置する塔の塚廃寺跡は、百濟系半弁軒丸瓦が発見され、戦前までは基礎、礎石の存在が知られていた奈良時代中期の寺院址で、目達原古墳群を営んだ米多国造一族の流れをくむ三根郡の郡司層が建立したものと推定されている。また、町内における奈良・平安時代の集落は、農業基盤整備事業に伴う調査や近年の大規模小売店舗建設に先立つ坊所一本谷遺跡³⁷の調査などでまともな調査がなされたのみで、今後の調査例の増加が期待される。

中世になると、北部の山麓部の小峰に山城が築かれ、沖積平野部には環濠を伴う平城や集落が出現する。町内の中世城館址としては、北部の鎮西山山城、上峰町中央部の平野を臨む丘陵部に坊所城跡、町南部の平野部には米多城跡、前牟田城跡、江迎城跡、一の橋環濠集落、加茂環濠集落などが知られていた³⁸。しかし、昭和40年代後半からの圃場整備事業によって、これら平野部の遺構は、原状がほとんど失われてしまった。そのようななかで、町の親水公園として整備された江迎城跡では13世紀後半代の龍泉窯系の青磁碗が建物跡とともに出土し、また、坊所城跡では16世紀後半代の青花がそれぞれ出土している³⁹。

以上、上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観したが、まさにこの地域は遺跡の密度、その内容ともに高く、遺跡の宝庫と呼ぶにふさわしい地域といえる。

註

- 1) 藤瀬慎博・石橋新次 『埴土遺跡群範囲確認調査第3年次概要報告書』 鳥栖市文化財調査報告書第30集 鳥栖市教育委員会 1980
- 2) 木下巧・天本洋一 『郷方遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第30集 佐賀県教育委員会 1974
- 3) 七田忠昭 『埴見谷遺跡』 北茂安町文化財調査報告書第2集 北茂安町教育委員会 1986
- 4) 金岡丈夫・坪井清足・金岡忍 『佐賀県三津永田遺跡』 『日本農耕文化の生成』 日本考古学協会 1961
- 5) 七田忠昭他 『古野々風』 佐賀県文化財調査報告書第113集 佐賀県教育委員会 1992
- 6) 原田大介 『八藤遺跡Ⅲ』 上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 7) 七田忠志 『原始』 『上峰村史』 上峰村 1979
- 8) 下山正一・西田民雄 『Ⅱ. 佐賀県上峰町周辺の地形と地質』 『佐賀平野の阿蘇4火砕流と埋没林』 上峰町文化財調査報告書第11集 上峰町教育委員会 1994
- 9) 高瀬哲郎・堤安信・久保伸洋 『香田遺跡』 『香田遺跡』 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書2 佐賀県文化財調査報告書第67集 佐賀県教育委員会 1981

- 10) 七田忠志 『佐賀県戦場ヶ谷遺跡』『史前学雑誌』 6-2・4 1934
- 11) 原田大介 『船石遺跡Ⅴ』 上峰町文化財調査報告書第12集 上峰町教育委員会 1995
- 12) 原田大介 『八藤遺跡Ⅱ・堤土塁跡Ⅱ』 上峰町文化財調査報告書第14集 上峰町教育委員会 1998
前出 (6)
- 13) 金岡丈夫・金岡恕・原口正三 『佐賀県切通遺跡』『日本農耕文化の生成』 日本考古学協会 1961
- 14) 高島忠平・七田忠昭他 『二塚山遺跡』『二塚山』 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 15) 七田忠昭 『一本谷遺跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 16) 七田忠昭 『船石遺跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 17) 鶴田浩二・原田大介 『船石遺跡Ⅱ図録編』 上峰村文化財調査報告書第6集 上峰村教育委員会 1988
鶴田浩二・原田大介 『船石遺跡Ⅱ本文編』 上峰村文化財調査報告書第7集 上峰村教育委員会 1989
原田大介 『船石遺跡Ⅲ』 上峰町文化財調査報告書第8集 上峰町教育委員会 1990
原田大介 『船石遺跡Ⅳ』 上峰町文化財調査報告書第9集 上峰町教育委員会 1991
- 18) 原田大介 『船石南遺跡Ⅰ』 上峰町文化財調査報告書第21集 上峰町教育委員会 2002
原田大介 『船石南遺跡Ⅱ』 上峰町文化財調査報告書第22集 上峰町教育委員会 2002
- 19) 原田大介 『八藤遺跡Ⅰ』 上峰町文化財調査報告書第13集 上峰町教育委員会 1997
- 20) 木下巧他 『姫方原遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第33集 佐賀県教育委員会1976
- 21) 木下 巧・七田忠昭 『五本谷遺跡』『二塚山』 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 22) 石橋新次 『銅塚前方後円墳』 鳥栖市文化財調査報告書第22集 鳥栖市教育委員会 1984
- 23) 前出 (2)
- 24) 松尾禎作 『日達原古墳群調査報告』『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第9輯 佐賀県教育委員会 1950
- 25) 木下之治 『古代国家の形成』『佐賀県史』佐賀県 1968
- 26) 木下之治編 『鏡子塚』 佐賀市教育委員会1976
- 27) 松尾禎作 『佐賀県考古大観』 祐徳博物館 1959
- 28) 前出 (24)
- 29) 前出 (16)
- 30) 七田忠昭・高山久美子・西田和己 『下中杖遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第54集 佐賀県教育委員会 1980
- 31) 高瀬哲郎他 『下石動遺跡』『下石動遺跡』 九州横所自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 (6) 佐賀県文化財調査報告書第86集 佐賀県教育委員会 1987
- 32) 松尾禎作 『東脊振村幸上院寺跡の調査』『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』第5輯 佐賀県 1936
- 33) 田平徳栄他 『雲仙寺跡』 東脊振村文化財調査報告書第4集 東脊振村教育委員会 1980
- 34) 高島忠平・笹一義 『堤土塁跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1978
- 35) 松尾禎作 『塚の塚遺跡』『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第7輯 佐賀県 1940
- 36) 前出 (12)
原田大介 『八藤遺跡Ⅲ』 上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 37) 平成5、6年度、上峰町教育委員会調査、整理中
- 38) 米倉二郎 『中世』『上峰村史』 上峰村 1979
- 39) 原田大介 『坊所城跡』 上峰町文化財調査報告書第10集 上峰町教育委員会 1992

Ⅱ．調査の概要

1. 調査に至る経緯

上峰町教育委員会では、平成元年度より、国庫補助事業の適用を受け、埋蔵文化財保護と開発との調整を図るため開発行為に伴い町内遺跡について事前の確認調査を実施してきた。民間あるいは公共機関等が主体となって実施される町内における各種開発行為について事前に協議を行い、周知の埋蔵文化財包蔵地の内外にかかわらず、これまでに埋蔵文化財発掘調査歴がない土地については、開発面積や工法等の制約がない限り、開発主体者等に事前の確認調査の実施にむけた協力の要請を行っている。

2. 調査の方法

確認調査の方法は、開発予定地に面積的、地形的な制約がない場合、10m×3mの試掘溝により地下の遺構・遺物の有無を確認することとしている。図上で開発予定範囲全体に10mのメッシュを組み、このメッシュに10m×3mの試掘溝を一マスおきに市松模様状に設定して、試掘溝の配置計画を作成している。この配置計画をもとに現地で試掘溝を設定し、調査を実施している。

また、開発面積に対する試掘面積の割合は、事前に図上で試掘溝を設定する時点ではおおむね開発面積の10%を目途としているものの、実際の調査では現地の種々の制約により、試掘溝の規模、配置等は臨機応変な対応を採ることも多く、試掘面積を小さくせざるを得ない場合も少なくはない。

各試掘溝の掘削については、遺構検出面までの掘削には可能な限り重機を使用しているが、重機が使用できない場合、包含層や遺構の掘り下げなどそれ以上の精査が必要な場合などは作業員の人力により掘削を行っている。遺構などが検出された試掘溝については、適宜略測を行い、縮尺1/100程度の平面図、縮尺1/20程度の土層断面図を作成し、フィルムカメラによる写真撮影を行い記録としている。作業終了後は、原則として試掘溝は埋め戻しを行い原状への復旧を図っている。

上峰町全图

上峰町道跡地名表

No.	道跡名	No.	道跡名
1	上峰	31	上峰
2	上峰	32	上峰
3	上峰	33	上峰
4	上峰	34	上峰
5	上峰	35	上峰
6	上峰	36	上峰
7	上峰	37	上峰
8	上峰	38	上峰
9	上峰	39	上峰
10	上峰	40	上峰
11	上峰	41	上峰
12	上峰	42	上峰
13	上峰	43	上峰
14	上峰	44	上峰
15	上峰	45	上峰
16	上峰	46	上峰
17	上峰	47	上峰
18	上峰	48	上峰
19	上峰	49	上峰
20	上峰	50	上峰
21	上峰	51	上峰
22	上峰	52	上峰
23	上峰	53	上峰
24	上峰	54	上峰
25	上峰	55	上峰
26	上峰	56	上峰
27	上峰	57	上峰
28	上峰	58	上峰
29	上峰	59	上峰
30	上峰	60	上峰
31	上峰	61	上峰
32	上峰	62	上峰
33	上峰	63	上峰
34	上峰	64	上峰
35	上峰	65	上峰
36	上峰	66	上峰
37	上峰	67	上峰
38	上峰	68	上峰
39	上峰	69	上峰
40	上峰	70	上峰
41	上峰	71	上峰
42	上峰	72	上峰
43	上峰	73	上峰
44	上峰	74	上峰
45	上峰	75	上峰
46	上峰	76	上峰
47	上峰	77	上峰
48	上峰	78	上峰
49	上峰	79	上峰
50	上峰	80	上峰
51	上峰	81	上峰
52	上峰	82	上峰
53	上峰	83	上峰
54	上峰	84	上峰
55	上峰	85	上峰
56	上峰	86	上峰
57	上峰	87	上峰
58	上峰	88	上峰
59	上峰	89	上峰
60	上峰	90	上峰
61	上峰	91	上峰
62	上峰	92	上峰
63	上峰	93	上峰
64	上峰	94	上峰
65	上峰	95	上峰
66	上峰	96	上峰
67	上峰	97	上峰
68	上峰	98	上峰
69	上峰	99	上峰
70	上峰	100	上峰

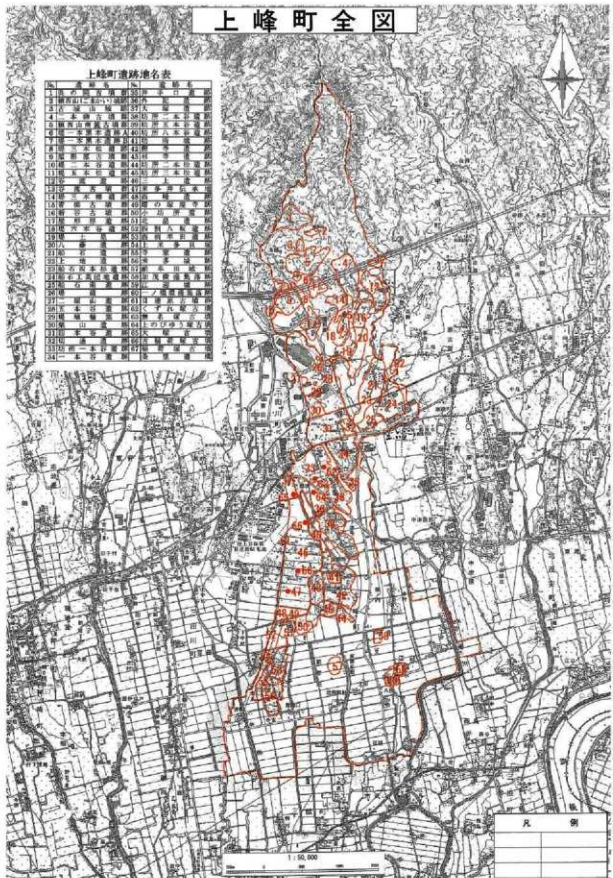


Fig. 2 上峰町道跡地図 (1/50,000)

Ⅲ. 平成11年度の調査

Tab.1 平成11年度 町内遺跡確認調査一覧表

No	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	西峰遺跡	上峰町大字坊所字西峰 2886番地, 2889番地	株式会社ミヤハラ物流	倉庫用地造成及び倉庫建設	2,234	210	平成11年6月1日 平成11年6月2日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
2	周知外井手口地区	上峰町大字坊所字三本谷 2320番地1, 2320番地2	上峰町	集落排水終末処理場建設	2,701	270	平成11年7月3日	遺物・遺構は検出されなかった。	工事実施中	
3	周知外 寺家一地区	上峰町大字前車田字一本杉 1348番地	N T T九州移動 通信網株式会社	携帯電話基地局建設 工事	474	45	平成11年8月10日	遺物・遺構は検出されなかった。	工事実施済	
4	櫻寺遺跡(1)	上峰町大字坊所字櫻寺 506番地1	学校法人 上峰幼稚園	職員駐車場造成 工事	422	45	平成11年9月20日 平成11年9月21日 平成11年9月22日	弥生時代、奈良時代の住居址3軒、土壇、ピットなどが検出された。	工事実施済	盛土、簡易舗装で遺構保存。
5	櫻寺遺跡(2)-1	上峰町大字坊所字櫻寺 590番地	学校法人 上峰幼稚園	園舎増設工事	476	54	平成11年9月16日 平成11年9月20日 平成11年9月23日	奈良時代の土壇、ピットなどが検出された。	工事実施済	
6	櫻寺遺跡(2)-2	上峰町大字坊所字櫻寺 590番地	学校法人 上峰幼稚園	園舎増設工事	476	200	平成11年10月15日	奈良時代の住居址2軒、建物址1棟、土壇、ピットなどが検出された。	工事実施済	検出された遺構については、本調査を実施した。
7	一本谷遺跡	上峰町大字字一本谷 2581番地1	太平不動産株式会社	店舗、分譲宅地造成 工事	4,957	390	平成11年11月9日 平成11年11月10日 平成11年11月11日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中	
8	周知外 船石地区(1)	上峰町大字堤字一本杉 7番地1	株式会社 美園造園	貸し店舗用地造成 工事	6,235	480	平成11年11月16日 平成11年11月17日 平成11年11月18日 平成11年11月19日 平成11年11月24日	弥生時代の遺物包含層、住居址、土壇などが検出された。	造成工事実施中	検出された遺構は盛土保存。
9	周知外 船石地区(2)	上峰町大字一本杉 28番地1	大川建設株式会社	資材置場として当面の間、現状のまま で使用する。	5,228	270	平成11年12月16日	弥生時代の遺物包含層、住居址、土壇などが検出された。	現状のまま資材置場として使用。	
10	周知外 船石地区(3)	上峰町大字堤字一本杉 28番地6	フィッシングナカムラ	店舗用地造成工事	3,139	240	平成11年12月17日	弥生時代の遺物包含層、住居址、土壇などが検出された。	造成工事実施中	検出された遺構は盛土保存。
11	周知外 下津毛地区	上峰町大字坊所字五本谷 2104番地1, 2105番地3	個人	分譲住宅造成工事	1,616	25	平成11年12月22日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中	
12	周知外 下坊所地区	上峰町大字坊所字下坊所 1072番地	有限会社シティ開発	分譲住宅造成工事	3,601	110	平成11年12月22日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中	
13	周知外 八枚地区	上峰町大字江造字八枚 622番地3	上峰町	集落排水終末処理場建設	2,150	60	平成12年1月4日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中	



Fig. 3 平成11年度 確認調査地位地図 (1/50,000)

H11-1

遺跡名：西峰遺跡

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：倉庫用地造成及び倉庫建設工事

工事面積：2,234㎡

調査面積：210㎡

調査時期：平成11年6月1、2日

立地と環境：西峰遺跡は町南西部の上峰町大字坊所字西峰、大字前幸田字小坊所に所在し、目達原

丘陵上に位置する弥生時代及び古墳時代の集落、墳墓遺跡である。本町三上地区と三田川町にまたがる目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は目達原丘陵の南部標高7m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 4 西峰遺跡 (1/5,000)



PL. 1 No.1 試掘溝

H11-2

遺跡名：周知外 井手口地区

調査地：上峰町大字坊所字三本谷

工事内容：農村集落排水終末処理場建設工事

工事面積：2,701㎡

調査面積：270㎡

調査時期：平成11年7月3日

立地と環境：調査対象地区は上峰町大字坊所字三本谷に

所在し、町中部の切通川西岸の沖積地標高

9m付近に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 5 周知外 井手口地区 (1/5,000)



PL. 2 No.1試掘溝

H11-3

遺跡名：周知外 寺家一地区

調査地：上峰町大字前牟田字一本松

工事内容：携帯電話基地局建設工事

工事面積：474㎡

調査面積：45㎡

調査時期：平成11年8月10日

立地と環境：調査対象地区は上峰町大字前牟田字一本松

に所在し、町南西部の井柳川東岸の沖積地

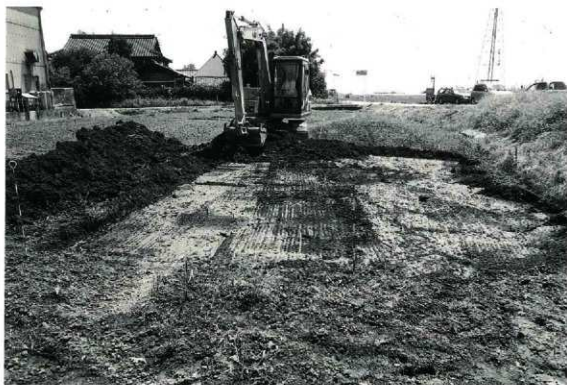
標高4m付近に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 6 周知外 寺家一地区 (1/5,000)



PL. 3 作業状況

H11-4

遺跡名：檀寺遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字檀寺

工事内容：駐車場造成工事

工事面積：422㎡

調査面積：45㎡

調査時期：平成11年9月20～22日

立地と環境：檀寺遺跡は上峰町大字坊所字檀寺に所在す

る弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡で、町

中南部の現上坊所集落が占有する坊所丘陵に位置している。調査対象地区は坊所丘陵の東部標高9m

付近に位置しており、これまで畑として利用されてきた。

遺構と遺物：弥生時代、奈良時代の住居址3軒、土壇、ピットなどが検出された。

調査後措置：検出された遺構は盛土保存し、工事実施。



Fig. 7 檀寺遺跡(1) (1/5,000)



PL. 4 遺構検出状況

H11-5・6

遺跡名：樗寺遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字樗寺

工事内容：幼稚園園舎増設工事

工事面積：476㎡

調査面積：200㎡

調査時期：平成11年9月16、20、23日

立地と環境：樗寺遺跡は上峰町大字坊所字樗寺に所在する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡で、町

中南部の現上坊所集落が占有する坊所丘陵に位置している。調査対象地区は坊所丘陵の東部標高9m付近に位置しており、これまで畑として利用されてきた。

遺構と遺物：奈良時代の住居址2軒、建物跡1棟、土壘、ピットなどが検出された。

調査後措置：検出された遺構については本調査後、工事実施。



Fig.8 樗寺遺跡(2) (1/5,000)



PL.5 遺構検出状況

H11-7

遺跡名：一本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字一本谷

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：4,957㎡

調査面積：390㎡

調査時期：平成6年11月9～11日

立地と環境：一本谷遺跡は上峰町大字坊所字一本谷に所在する縄文時代から古墳時代に及ぶ集落、

墳墓遺跡で、町中部の井手口丘陵上に立地している。調査対象地区は井手口丘陵、国道34号線沿いの標高20m付近に位置しており、病院施設の解体後更地となっていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

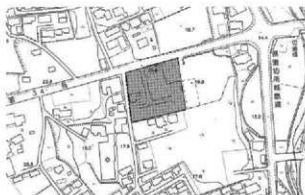


Fig.9 一本谷遺跡 (1/5,000)



PL.6 作業状況出

H11-8

遺跡名：周知外 船石地区(1)

調査地：上峰町大字堤字一本杉

工事内容：店舗用地造成工事

工事面積：6,235㎡

調査面積：480㎡

調査時期：平成11年11月16～19、26日

立地と環境：調査対象地区は国道34号線沿線、本町と中

原町の境界付近に所在し、舟石川東岸の標

高18m付近の段丘上に位置している。これまで廃材置場として利用されていた。

遺構と遺物：弥生時代の遺物包含層、住居址、土城などが検出された。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存し、工事実施。



Fig. 10 周知外 船石地区(1) (1/5,000)



PL. 7 №5次掘溝

H11-9

遺跡名：周知外 船石地区(2)

調査地：上峰町大字堤字一本杉

工事内容：資材置場整備工事

工事面積：5,228㎡

調査面積：270㎡

調査時期：平成11年12月16日

立地と環境：調査対象地区は国道34号線沿線、本町と中

原町の境界付近に所在し、舟石川北岸の標

高18～20m付近の段丘上に位置している。これまでも資材置場として利用されていた。

遺構と遺物：弥生時代の遺物包含層、住居址、土壇などが検出された。

調査後措置：検出された遺構については工事の影響が及ばないことを確認し、工事实施。

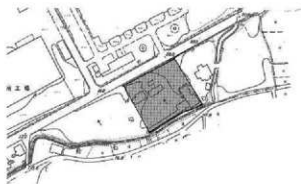


Fig. 11 周知外 船石地区(2) (1/5,000)



PL. 8 No.8試掘溝

H11-10

遺跡名：周知外 船石地区(2)

調査地：上峰町大字堀字一本杉

工事内容：店舗用地造成工事

工事面積：3,139㎡

調査面積：240㎡

調査時期：平成11年12月17日

立地と環境：調査対象地区は国道34号線沿線、本町と中

原町の境界付近に所在し、舟石川東岸の標

高18m付近の段丘上に位置している。これまで廃材置場として利用されていた。

遺構と遺物：弥生時代の遺物包含層、住居址、土壌などが検出された。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存し、工事実施。



Fig. 12 周知外 船石地区(3) (1/5,000)



PL. 9 No.1 試掘溝

H11-11

遺跡名：周知外 下津毛地区

調査地：上峰町大字坊所字七本谷

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：1,616㎡

調査面積：25㎡

調査時期：平成11年12月22日

立地と環境：調査対象地区は上峰町大字坊所字五本谷に
所在し、町のほぼ中央部下津毛地区に延び

る下津毛丘陵東斜面の一支谷標高9m付近に位置しており、これまでは水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 13 周知外 下津毛地区 (1/5,000)



PL.10 作業状況

H11-12

遺跡名：周知外 下坊所地区

調査地：上峰町大字坊所字下坊所

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：3,601㎡

調査面積：110㎡

調査時期：平成11年12月22日

立地と環境：調査対象地区は、町中南部の上峰町大字坊

所字下坊所に所在し、切通川西岸の沖積地

標高5m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

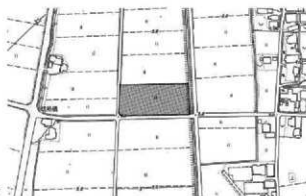


Fig. 14 周知外 下坊所地区 (1/5,000)



PL.11 作業状況

H11-13

遺跡名：周知外 八枚地区

調査地：上峰町大字江迎字八枚

工事内容：農村集落排水終末処理場建設工事

工事面積：2,150㎡

調査面積：60㎡

調査時期：平成12年1月4日

立地と環境：調査対象地区は、町南東部の上峰町大字江

迎字八枚に所在し、切通川西岸の沖積地標

高5m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 15 周知外 八枚地区 (1/5,000)



PL.12 No.1試掘溝

IV. 平成12年度の調査

Tab.2 平成12年度 町内遺跡確認調査一覧表

No	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	周知外 上坊所地区(1)	上峰町大字坊所字上坊所 288番地1, 288番地7	三菱農業協同組合	分譲住宅造成工事	1,537	110	平成12年4月20日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
2	周知外 上坊所地区(2)	上峰町大字坊所字上坊所 317番地1, 317番地2 318番地1, 318番地3	個人	展示場用地造成工事	2,014	40	平成12年5月10日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
3	周知外 下坊所地区	上峰町大字坊所字下坊所 2,113番地①, 2113番地② 2113番地③, 2113番地4 2114番地①, 2114番地②	佐賀県経済農業共同組合	分譲住宅造成工事	9,878	340	平成12年5月18日 平成12年5月19日 平成12年6月7日 平成12年6月8日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
4	周知外 下線毛地区	上峰町大字坊所字下線毛 57番地1, 57番地2 57番地3	肥前開発有限公司	店舗用地造成工事	1,464	40	平成12年6月6日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
5	三上遺跡-1	上峰町大字坊所字三上 3059番地	個人	共同住宅建設工事	1,002	90	平成12年7月11日 平成12年7月17日	奈良時代と考えられる土壇、柱穴が検出された。土師器片、須恵器片が出土した。	工事実施中	検出された遺構は盛土保存。
6	五本谷遺跡	上峰町大字堀字五本谷 2100番地9	J-Phone 九州株式会社	携帯電話基地局建設工事	64	36	平成12年7月23日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
7	西峰遺跡	上峰町大字坊所字西峰 2890番地, 2891番地	株式会社ミヤハラ物流	駐車場用地造成工事	1,421	60	平成12年7月13日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
8	周知外 上米多地区(1)	上峰町大字前牟田字上米多 1916番地1	東陽木材工業株式会社	事務所・資材置場造成工事	5,646	200	平成12年7月28日 平成12年7月29日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
9	三上遺跡-2	上峰町大字坊所字三上 3059番地	個人	共同住宅建設工事	1,002	300	平成12年8月1日 平成12年8月4日 平成12年8月5日 平成12年8月6日	奈良時代と考えられる堀立柱建物址1棟、土壇3基、ピットなどが検出された。土師器片、須恵器片が出土した。	工事実施中	
10	周知外 上米多地区(2)	上峰町大字前牟田字一本杉 1437番地, 1728番地1 1729番地	個人	資材置場用地造成工事	1,737	150	平成12年9月8日 平成12年9月9日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
11	周知外 上米多地区(3)	上峰町大字前牟田字一本杉 1579番地1	今泉不動産	倉庫用地造成工事	625	20	平成12年10月30日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
12	外記遺跡	上峰町大字坊所 1570番地55, 1570番地64, 1570番地176	個人	店舗併用住宅他建築工事	2,224	90	平成12年12月4日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中	
13	切通遺跡	上峰町大字堀字四本谷 1903番地230, 1930番地240	個人	共同住宅建設工事	200	20	平成12年12月4日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中	
14	周知外 上坊所地区(3)	上峰町大字坊所字上坊所 430番地5	個人	共同住宅建設工事	594	20	平成12年12月16日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中	

No	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
15	阿知外 東前卒田地区	上峰町大字前卒田字東前卒田 95番地1, 95番地2, 95番地7, 95番地8,	上峰町	上峰中央公園・福祉センター用地造成工事	54,794	585	平成13年1月10日 平成13年1月11日 平成13年1月12日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中	
16	阿知外 上坊所地区(4)	上峰町大字坊所字上坊所 272番地3	三樹病院	駐車場用地造成工事	954	81	平成13年2月23日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中	



Fig.16 平成12年度 確認調査地位置図 (1/50,000)

H12-1

遺跡名：周知外 上坊所地区(1)

調査地：上峰町大字坊所字上坊所

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：1,537㎡

調査面積：110㎡

調査時期：平成12年4月20日

立地と環境：調査対象地区は、町中南部の上峰町大字坊

所字上坊所に所在し、切通川西岸の沖積地

標高6m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.17 周知外 上坊所地区(1) (1/5,000)



PL.13 №2試掘溝

H12-2

遺 跡 名：周知外 上坊所地区(2)

調 査 地：上峰町大字坊所字上坊所

工事内容：展示場用地造成工事

工事面積：2,014㎡

調査面積：40㎡

調査時期：平成12年5月10日

立地と環境：調査対象地区は、町中南部の上峰町大字坊

所字上坊所に所在し、切通川西岸の沖積地

標高6m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.18 周知外 上坊所地区(2) (1/5,000)



PL.14 作業状況

H12-3

遺跡名：周知外 下坊所地区

調査地：上峰町大字坊所字上坊所

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：9,878㎡

調査面積：340㎡

調査時期：平成12年5月18、19日、6月7、8日

立地と環境：調査対象地区は、町中南部の上峰町大字坊

所字下坊所に所在し、切通川西岸の沖積地

標高4m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.19 周知外 下坊所地区 (1/5,000)



PL.15 作業状況

H12-4

遺跡名：周知外 下津毛地区

調査地：上峰町大字坊所字下津毛

工事内容：店舗用地造成工事

工事面積：1,464㎡

調査面積：40㎡

調査時期：平成12年6月6日

立地と環境：調査対象地区は、町中部の上峰町大字坊所

字下津毛に所在し、切通川西岸の沖積地標

高8m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.20 周知外 下津毛地区 (1/5,000)



PL.16 作業状況

H12-5-9

遺跡名：三上遺跡

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：1,002㎡

調査面積：90㎡

調査時期：平成12年7月11、17日、8月1、4～6日

立地と環境：三上遺跡は町中南部の上峰町大字坊所字三上、西峰、大字前幸田字小坊所に所在し、

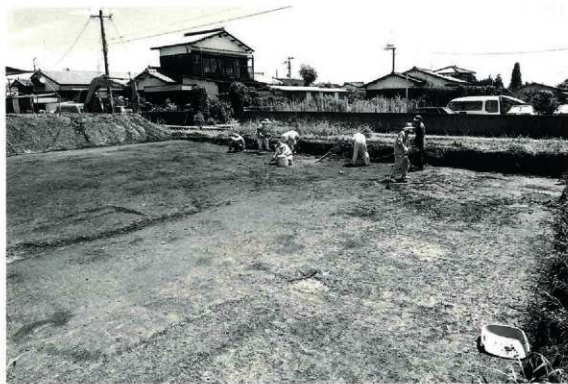
目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。本町三上地区と三田川町にまたがる目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は目達原丘陵の南部標高12m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：奈良時代の建物跡1棟、土壇3基などが検出され、土師器片、須恵器片が出土した。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存し工事実施。



Fig.21 三上遺跡 (1/5,000)



PL.17 遺構検出状況

H12-6

遺跡名：五本谷遺跡

調査地：上峰町大字堤字五本谷

工事内容：通信施設建設工事

工事面積：64㎡

調査面積：36㎡

調査時期：平成12年7月23日

立地と環境：五本谷遺跡は町北部の上峰町大字堤字五本谷に所在し、二塚山丘陵上に位置する弥生

時代から古墳時代にかけての墳墓遺跡である。町北部の山麓部から本町堤地区に派生する二塚山丘陵は先年の工業団地造成に伴い弥生時代から古墳時代にかけての墳墓が多数検出されており、一部が工業団地内の緑地として保存されている。調査対象地区は二塚山丘陵の東部標高32m付近に位置しており、これまでは山林であった。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.22 五本谷遺跡 (1/5,000)



PL.18 作業状況

H12-7

遺跡名：西峰遺跡

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：物流倉庫建設、トラックヤード造成工事

工事面積：1,421㎡

調査面積：60㎡

調査時期：平成12年7月13日

立地と環境：西峰遺跡は町南西部の上峰町大字坊所字西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、目達原

丘陵上に位置する弥生時代及び古墳時代の集落、墳墓遺跡である。本町三上地区と三田川町にまたがる目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は目達原丘陵の南部標高7m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.23 西峰遺跡 (1/5,000)



PL.19 No.1試掘溝

H12-8

遺 跡 名：周知外 上米多地区(1)

調 査 地：上峰町大字前牟田字上米多

工事内容：資材置場造成、事務所建設工事

工事面積：5,646㎡

調査面積：200㎡

調査時期：平成12年7月28、29日

立地と環境：調査対象地区は町南西部の上峰町大字前牟田字上米多に所在し、現上米多集落が立地

する目達原丘陵の東側の沖積地標高4m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事实施。



Fig.24 周知外 上米多地区(1) (1/5,000)



PL.20 作業状況

H12-10

遺 跡 名：周知外 上米多地区(2)

調 査 地：上峰町大字前牟田字一本杉

工事内容：資材置場造成工事

工事面積：1,737㎡

調査面積：150㎡

調査時期：平成12年9月8、9日

立地と環境：調査対象地区は町南西部の上峰町大字前牟田字一本杉に所在し、現上米多集落が立地

する目達原丘陵上の標高8m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.25 周知外 上米多地区(2) (1/5,000)



PL.21 No.1試掘溝

H12-11

遺跡名：周知外 上米多地区(3)

調査地：上峰町大字前牟田字五本杉

工事内容：資材置場造成工事

工事面積：625㎡

調査面積：20㎡

調査時期：平成12年10月30日

立地と環境：調査対象地区は町南西部の上峰町大字前牟田字五本杉に所在し、現上米多集落が立地

する目達原丘陵上の西側の沖積地標高4m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.26 周知外 上米多地区(3) (1/5,000)



PL.22 作業状況

H12-12

遺跡名：外記遺跡

調査地：上峰町大字坊所字七本谷

工事内容：店舗併用住宅建設工事

工事面積：2,224㎡

調査面積：90㎡

調査時期：平成12年12月4日

立地と環境：外記遺跡は町中部の上峰町大字坊所字七本谷に所在し、下津毛丘陵の基部付近を占有

する弥生時代から中世に及ぶ集落、墳墓遺跡である。調査対象地区は下津毛丘陵の基部標高19m付近に位置しており、これまでも一部が店舗、駐車場として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.27 外記遺跡 (1/5,000)



PL.23 作業状況

H12-13

遺跡名：切通遺跡

調査地：上峰町大字堀字四本谷

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：200㎡

調査面積：20㎡

調査時期：平成12年12月4日

立地と環境：切通遺跡は町中北部の上峰町大字堀字四本谷に所在し、二塚山丘陵上に位置する弥生

時代の甕棺墓群を主体とする墳墓遺跡である。町北部の山麓部から本町堀地区に派生する二塚山丘陵は先年の工業団地造成に伴い弥生時代から古墳時代にかけての墳墓が多数検出されている。調査対象地区は二塚山丘陵の南東部標高20m付近に位置しており、すでに宅地状に切土造成された更地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.28 切通遺跡 (1/5,000)



PL.24 No.1試掘溝

H12-14

遺跡名：周知外 上坊所地区(3)

調査地：上峰町大字坊所字上坊所

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：594㎡

調査面積：20㎡

調査時期：平成12年12月15日

立地と環境：調査対象地区は町中南部の上峰町大字坊所
字上坊所に所在し、切通川西岸の沖積地標

高6m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.29 周知外 上坊所地区(3) (1/5,000)



PL.25 作業状況

H12-15

遺跡名：周知外 東前牟田地区

調査地：上峰町大字前牟田字東前牟田

工事内容：公園、福祉施設建設工事

工事面積：54,794㎡

調査面積：585㎡

調査時期：平成13年1月10～12日

立地と環境：調査対象地区は町南部の上峰町大字前牟田字東前牟田に所在し、切通川西岸の沖積地標高6m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

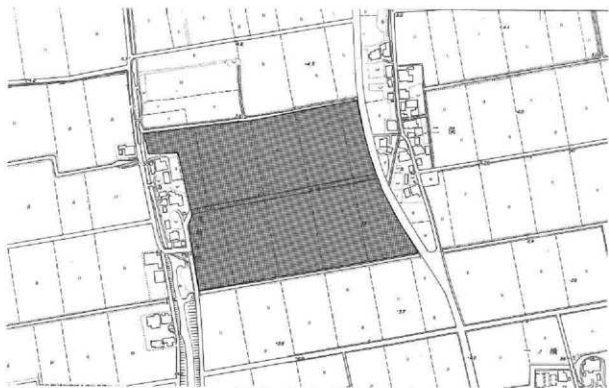


Fig.30 周知外 東前牟田地区 (1/5,000)



PL.26 作業状況



PL.27 №5試掘溝

H12-16

遺跡名：周知外 上坊所地区(4)

調査地：上峰町大字坊所字上坊所

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：594㎡

調査面積：20㎡

調査時期：平成13年2月23日

立地と環境：調査対象地区は町中南部の上峰町大字坊所
字上坊所に所在し、切通川西岸の沖積地標

高6m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.31 周知外 上坊所地区(4) (1/5,000)



PL.28 作業状況

V. 平成13年度の調査

Tab.3 平成13年度 町内遺跡確認調査一覧表

No	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(㎡)	調査面積(㎡)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	大塚遺跡	上峰町大字坊所字大塚 1523番地1, 1524番地8 1524番地12, 1524番地48 1524番地58, 1532番地1	大同コンクリート株式会社 佐賀三田川工場	現工場地の売却	30,525	750	平成13年6月6日 平成13年6月7日 平成13年6月8日 平成13年6月11日 平成13年6月12日 平成13年6月13日 平成13年6月15日 平成13年6月16日	奈良・平安朝の住居址、柱穴列、土壇等が検出され、それらの遺構に伴い土師器・須恵器が出土した。	売却交渉中	
2	三上遺跡	上峰町大字坊所字西峰 2794番地1	個人	売却後宅地造成予定	429	20	平成13年11月6日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中	
3	西峰遺跡	上峰町大字前半田字小坊所 1956番地2	上峰町	文化財収蔵庫移転工事	93	20	平成14年2月1日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済み	
4	日蓮原古墳群	上峰町大字坊所字三上地内	陸上自衛隊日蓮原	駐屯地内施設整備工事	40,000	735	平成14年2月27日 平成14年2月28日 平成14年3月1日 平成14年3月4日 平成14年3月8日 平成14年3月12日 平成14年3月13日 平成14年3月14日	古墳の周溝を確認した。覆土中から円筒埴輪片、須恵器片が出土した。	平成14年度以降工事実施予定	検出された遺構は盛土保存。
5	周知外 上米多地区	上峰町大字坊所字上米多 1869番地, 1897番地	社会福祉法人 野菊の里	福祉施設移転改築工事	11,790	180	平成14年3月11日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中	
6	周知外 下坊所地区	上峰町大字坊所字下坊所 1787番地1, 1787番地2	有限会社グリーコ	分譲宅地造成工事	4,128	120	平成14年3月18日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事未着手	



Fig.32 平成13年度 確認調査地位置図 (1/50,000)

H13-1

遺跡名：大塚遺跡

調査地：上峰町大字坊所字大塚

工事内容：現工場地売却

工事面積：30,525㎡

調査面積：750㎡

調査時期：平成13年6月6～8日、11～13日、15・16日

立地と環境：大塚遺跡は町中部の上峰町大字坊所字大塚に所在し、本町と三田川町にまたがる目達原丘陵の基部付近に位置する弥生時代から奈良・平安時代に及ぶ集落、墳墓遺跡である。調査対象地区は目達原丘陵の北東部標高20m付近に位置しており、コンクリート製品の製造工場および資材置場として利用されていた。

遺構と遺物：奈良・平安時代時代の住居跡、建物跡、土壌などが検出され、これらの遺構に伴い土師器片、須恵器片などが出土した。

調査後措置：売却後、公衆浴場、宿泊施設、分譲宅地造成などの工実施。

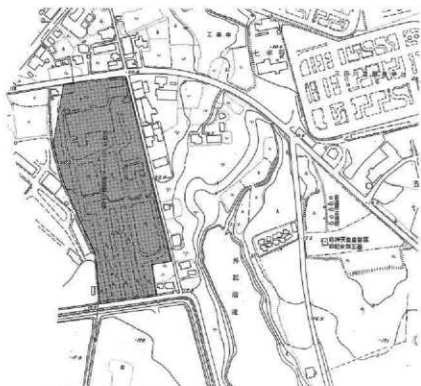


Fig.33 大塚遺跡 (1/5,000)



PL.29 作業状況



PL.30 No.26試掘溝

H13-2

遺跡名：三上遺跡

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：土地売却後、宅地造成予定

工事面積：429㎡

調査面積：20㎡

調査時期：平成13年11月6日

立地と環境：三上遺跡は町中南部の上峰町大字坊所字三

上、西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、

目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。本町三上地区と三田川町にまたがる目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は目達原丘陵の中央部標高10m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.34 三上遺跡 (1/5,000)



PL.31 作業状況

H13-3

遺跡名：西峰遺跡

調査地：上峰町大字前牟田字小坊所

工事内容：文化財収蔵庫移設工事

工事面積：93㎡

調査面積：20㎡

調査時期：平成14年2月1日

立地と環境：西峰遺跡は町南西部の上峰町大字坊所字西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、目達原

丘陵上に位置する弥生時代及び古墳時代の集落、墳墓遺跡である。本町三上地区と三田川町にまたがる目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は目達原丘陵の南部標高7m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.35 西峰遺跡 (1/5,000)



PL.32 作業状況

H13-4

遺跡名：目達原古墳群

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：陸上自衛隊駐屯地内施設整備工事

工事面積：40,000㎡

調査面積：735㎡

調査時期：平成14年2月27日～3月1日、4、8日、12～14日

立地と環境：戦時中の陸軍飛行場建設までは本町中西部から三田川町にまたがる目達原丘陵帯には、上のびょう塚古墳（陵墓参考地 都紀女加王墓）、大塚古墳、古稲荷塚古墳、稲荷塚古墳、塚山古墳などの前方後円墳をはじめとする大小の古墳が点在し、目達原古墳群を形成していたが、現在は上のびょう塚古墳を残し、ほとんどの古墳が姿を消した。調査対象地区は、目達原丘陵の基部東側標高17～18m付近に位置し、駐屯地の一部として利用されており、地区内には古稲荷塚古墳がかつて所在していた。

遺構と遺物：陸軍飛行場建設当時、調査対象地区を含む駐屯地内一帯は全体的にかなりの規模で削平されており、遺構等はほとんど確認できなかったが、かつて古稲荷塚古墳が所在していたと推測される区域で古墳の周溝の基底部が検出され、周溝内から円筒埴輪片、須恵器片などが出土した。

調査後措置：検出された古墳の周溝については盛土保存し、工事実施。



Fig.36 目達原古墳群 (1/5,000)



PL.33 作業状況



PL.34 №38試掘溝 古墳周溝検出状況

H13-5

遺跡名：周知外 上米多地区
調査地：上峰町大字前牟田字上米多
工事内容：福祉施設建設工事
工事面積：11,790㎡
調査面積：180㎡

調査時期：平成14年3月11日

立地と環境：調査対象地区は町南部の上峰町大字前牟田
字上米多に所在し、目連原丘陵南東部の沖

積地標高4m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.37 周知外 上米多地区 (1/5,000)



PL.35 作業状況

H13-6

遺跡名：周知外 下坊所地区

調査地：上峰町大字坊所字下坊所

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：4,128㎡

調査面積：120㎡

調査時期：平成14年8月18日

立地と環境：調査対象地区は町南部の上峰町大字坊所字

下坊所に所在し、坊所丘陵南部の沖積地標

高4m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.38 周知外 下坊所地区 (1/5,000)



PL.36 作業状況

VI. 平成14年度の調査

Tab.4 平成14年度 町内遺跡確認調査一覧表

No	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	屋形原遺跡(1)	上峰町大字塩字三本松 3307番地、3308番地 3309番地	佐賀県	県道改良工事	204	34	平成14年4月10日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済み	
2	日蓮原古墳群	上峰町大字坊所字三上地内	陸上自衛隊日蓮原 駐屯地	駐屯地内施設整備 工事	20,000	190	平成14年4月18日 平成14年4月19日 平成14年4月20日	前方後円墳の周溝を確認した。周溝の一部を掘り下げ、円筒埴輪片、須恵器片が出土した。その他の遺構として、柱穴列、土壕などが検出された。	工事実施中	古墳の全体規模把握のため周辺区域の確認調査について開発主体者と調整中。検出された遺構は盛土保存。
3	大塚遺跡(1)	上峰町大字坊所字大塚 2,320番地1、2320番地2	佐賀県	県道改良工事	468	58	平成14年4月26日	奈良時代の住居址1軒、その他土壇・ピットが検出された。ピットより土師器蓋が出土した。	本調査実施後、	
4	三上遺跡(1)-1	上峰町大字坊所字西峰 2725番地	個人	共同住宅建設工事	987	90	平成14年5月9日	試掘溝全体においてピットが検出された。	工事実施済み	検出された遺構は盛土保存。
5	三上遺跡(1)-2	上峰町大字坊所字西峰 2725番地	個人	共同住宅建設工事	987	400	平成14年5月31日 平成14年6月3日	土壇・ピットの他に覆土中に円筒埴輪片を含む扁形板古墳の北側周溝の一部と考えられる溝状遺構を確認した。	工事実施済み	検出された遺構は盛土保存。
6	屋形原遺跡(2)	上峰町大字塩字三本松 3307番地、3308番地 3309番地	佐賀県	県道改良工事付帯 工事	200	33	平成14年6月25日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済み	
7	西峰遺跡	上峰町大字前平田字小坊所 1956番地2	上峰町	集落排水終末処理 場建設	3,125	70	平成14年6月25日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中	
8	北島遺跡	上峰町大字前平田字北島 1743番地、1745番地、 1746番地、1747番地	高木運輸株式会社	駐車場用地造成工	1,834	210	平成14年7月2日 平成14年7月3日	奈良時代の住居址2軒、土壇、ピット、中世の溝跡などが検出され、土師器片、須恵器片、中世土器片が出土した。	工事実施済み	駐車場に簡易舗装、検出された遺構は、盛土保存。
9	坊所一本谷遺跡	上峰町大字坊所字七本谷 1570番地169	コスモ石油株式会社 福岡支店	ガソリンスタンド 建設工事	1,653	150	平成14年9月5日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済み	
10	岡知外 下津毛地区	上峰町大字坊所字五本谷 1851番地3	個人	共同住宅建設工事	1,395	40	平成14年9月26日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中	

No	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
11	大塚遺跡(2)-1	上峰町大字坊所字大塚 1523番地15, 1523番地18, 1523番地21, 1523番地22, 1523番地23, 1523番地24, 1523番地25, 1523番地26, 1523番地27, 1523番地28, 1523番地29, 1523番地30, 1523番地31	株式会社ホームマン	分譲住宅造成工事	5,913	270	平成15年1月8日 平成15年1月9日 平成15年1月10日	一部の試掘溝において、円筒地輪片を含む古墳の周溝状の溝跡が検出された。	工事実施中	
12	大塚遺跡(2)-2	上峰町大字坊所字大塚	株式会社ホームマン	分譲住宅造成工事	5,913	300	平成15年1月30日 平成15年1月31日 平成15年2月1日	前方後円墳の周溝であることが確認された。	工事実施中	
13	大塚遺跡(3)	上峰町大字坊所字大塚 1523番地1, 1524番地12, 1524番地58, 2768番地2, 2810番地2	祐徳温泉株式会社	公衆浴場建設工事	16,524	380	平成15年2月27日 平成15年3月5日	奈良時代の土層から土師器、須恵器片が少量出土した。	工事実施中	検出された遺構については本調査を実施した。
14	大塚遺跡(2)-3	上峰町大字坊所字大塚	株式会社ホームマン	分譲宅地造成工事	5,913	1,360	平成15年3月5日 平成15年3月14日	前2回の確認調査にて検出された前方後円墳の周溝について全体のプランの確認を行った。	工事実施中	分譲宅地部分については遺構は盛土保存。宅地進入部分(300m ²)については、本調査を実施した。
15	三上遺跡(2)	上峰町大字坊所字西峰 2963番地1	個人	共同住宅建設工事	972	90	平成15年3月18日	遺物・遺構は検出されなかった。	工事未着手	



Fig.39 平成14年度 確認調査地位費図 (1/50,000)

H14-1

遺跡名：屋形原遺跡(1)

調査地：上峰町大字堤字三本松

工事内容：県道改良工事

工事面積：204㎡

調査面積：34㎡

調査時期：平成14年4月10日

立地と環境：屋形原遺跡は町北部の上峰町大字堤字三本松に所在する弥生時代から中世に及ぶ集

落、墳墓遺跡で、上峰町と東脊振村との境界付近から現屋形原集落の南方へ延びる屋形原丘陵上に位置している。調査対象地区は現屋形原集落の北部を東西に走る県道沿線の標高30m付近に位置しており、畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.40 屋形原遺跡(1) (1/5,000)



PL.37 調査区全景

H14-2

遺跡名：目達原古墳群

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：陸上自衛隊駐屯地内施設整備工事

工事面積：20,000㎡

調査面積：190㎡

調査時期：平成14年4月18～20日

立地と環境：戦時中の陸軍飛行場建設までは本町中西部から三田川町にまたがる目達原丘陵一帯



Fig.41 目達原古墳群 (1/5,000)

には、上のびゅう塚古墳（陵墓参考地 都紀女加王墓）、大塚古墳、古稲荷塚古墳、稲荷塚古墳、塚山古墳などの前方後円墳をはじめとする大小の古墳が点在し、目達原古墳群を形成していたが、現在は上のびゅう塚古墳を残し、ほとんどの古墳が姿を消した。調査対象地区は、目達原丘陵の基部東側標高17～18m付近に位置し、駐屯地の一部として利用されており、地区内には古稲荷塚古墳がかつて所在していた。

遺構と遺物：平成13年度の確認調査で検出された古稲荷塚古墳の周溝と推測される周溝の追跡確認調査を実施した。その結果くびれ部と前方部のコーナー部を確認し、これまで円墳と考えられていた岡古墳が目達原古墳群内の他の主要な古墳と同様、前方後円墳であった可能性が高くなった。周溝内から円筒埴輪片、須恵器片などが出土し、その他の部分からは土壌なども検出された。

調査後措置：検出された古墳の周溝などについては盛土保存し、工事実施。



PL.38 前方部周溝検出状況

H14-3

遺跡名：大塚遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字大塚

工事内容：県道改良工事

工事面積：469㎡

調査面積：58㎡

調査時期：平成14年4月26日

立地と環境：大塚遺跡は町中部の上峰町大字坊所字大塚
に所在し、本町と三田川町にまたがる目達

原丘陵の基部付近に位置する弥生時代から奈良・平安時代に及ぶ集落、墳墓遺跡である。調査対象
地区は目達原丘陵の北東部標高20m付近に位置しており、工場用地として利用されていた。

遺構と遺物：奈良時代の住居址1軒、その他土壌、ピットが検出された。ピットより土師器壺が出土した。

調査後措置：検出された遺構については本調査を実施後、工事実施。

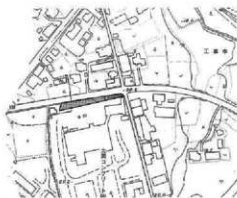


Fig.42 大塚遺跡(1) (1/5,000)



PL.39 №2試掘溝

H14-4・5

遺跡名：三上遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：共同住宅建設

工事面積：987㎡

調査面積：400㎡

調査時期：平成14年5月9、31日、6月3日

立地と環境：三上遺跡は町中南部の上峰町大字坊所字三

上、西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、

目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。本町三上地区と三田川町にまたがる目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は目達原丘陵の中央部標高13m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：土壌・ピットの他に覆土中に円筒埴輪片を含む稲荷塚古墳の北側周溝の一部と考えられる溝状遺構の基底部がわずかに遺存していた。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存し、工事実施。



Fig.43 三上遺跡(1) (1/5,000)



PL.40 遺構検出状況

H14-6

遺跡名：屋形原遺跡(2)

調査地：上峰町大字堤字三本松

工事内容：県道改良工事

工事面積：200㎡

調査面積：33㎡

調査時期：平成14年6月25日

立地と環境：屋形原遺跡は町北部の上峰町大字堤字三本松に所在する弥生時代から中世に及ぶ集

落、墳墓遺跡で、上峰町と東脊振村との境界付近から現屋形原集落の南方へ延びる屋形原丘陵上に位置している。調査対象地区は現屋形原集落の北部を東西に走る県道沿線の標高30m付近に位置しており、畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.44 屋形原遺跡(2) (1/5,000)



PL.41 調査区全景

H14-7

遺跡名：西峰遺跡

調査地：上峰町大字前幸田字小坊所

工事内容：農村集落排水終末処理場建設工事

工事面積：3,125㎡

調査面積：70㎡

調査時期：平成14年6月25日

立地と環境：西峰遺跡は町南西部の上峰町大字坊所字西

峰、大字前幸田字小坊所に所在し、目達原

丘陵上に位置する弥生時代及び古墳時代の集落、墳墓遺跡である。本町三上地区と三田川町にまたがる目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は目達原丘陵の南部標高7m付近に位置しており、これまで町の文化財収蔵庫として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.45 西峰遺跡 (1/5,000)



PL.42 作業状況

H14-8

遺跡名：北畠遺跡

調査地：上峰町大字前牟田字北畠

工事内容：トラックヤード造成工事

工事面積：1,834㎡

調査面積：210㎡

調査時期：平成14年7月2、8日

立地と環境：北畠遺跡は町西部の上峰町前牟田字北畠

に所在し、目達原丘陵上南部に位置する弥

生時代から中世に及ぶ集落、墳墓遺跡である。調査対象地区は目達原丘陵の南部標高7m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：奈良時代の住居址2軒、土壇、ピット、中世の溝跡などが検出され、土師器片、須恵器片、中世土器片が出土した。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存し、工事実施。



Fig.46 北畠遺跡 (1/5,000)



PL.43 №7試掘溝

H14-9

遺跡名：坊所一本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字七本谷

工事内容：ガソリンスタンド建設工事

工事面積：1,653㎡

調査面積：210㎡

調査時期：平成14年9月5日

立地と環境：坊所一本谷遺跡は町中央部の上峰町坊所字一本谷、七本谷に所在し、下津毛丘陵の基

部に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は下津毛丘陵の標高19m付近に位置しており、すでに拓かれ更地となっていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.47 坊所一本谷遺跡 (1/5,000)



PL.44 作業状況

H14-10

遺跡名：周知外 下津毛地区

調査地：上峰町大字坊所字五本谷

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：1,395㎡

調査面積：40㎡

調査時期：平成14年9月26日

立地と環境：調査対象地区は町中央の上峰町大字坊所字

五本谷に所在し、下津毛丘陵の一支谷の谷

底水田部標高10m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.48 周知外 下津毛地区 (1/5,000)



PL.45 作業状況

H14-11・12・14

遺跡名：大塚遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字大塚

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：5,913㎡

調査面積：380㎡

調査時期：平成15年1月8～10日、30日～2月1日、3月5

日、14日

立地と環境：大塚遺跡は町中部の上峰町大字坊所字大塚

に所在し、本町と三田川町にまたがる目達原丘陵の基部付近に位置する弥生時代から奈良・平安時代に及ぶ集落、墳墓遺跡である。調査対象地区は目達原丘陵の北東部標高19m付近に位置しており、工場用地として利用されていた。

遺構と遺物：基底部がわずかに遺存する古墳の周溝、その他土壘、ピットが検出された。検出された周溝はくびれ部の造りだしの特徴などその形状から大塚古墳の周溝と推定され、その位置を再確認することができた。周溝の一部から円筒埴輪片、葺き石と思われる自然礫などが出土した。

調査後措置：検出された周溝については一部本調査を実施、その他の部分は盛土保存し、工事実施。



Fig.49 大塚遺跡(2) (1/5,000)



PL.46 古墳前方部周溝検出状況

H14-13

遺跡名：大塚遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字大塚

工事内容：公衆浴場建設工事

工事面積：16,524㎡

調査面積：380㎡

調査時期：平成15年2月27日、3月5日

立地と環境：大塚遺跡は町中部の上峰町大字坊所字大塚

に所在し、本町と三田川町にまたがる目達

原丘陵の基部付近に位置する弥生時代から奈良・平安時代に及ぶ集落、墳墓遺跡である。調査対象

地区は目達原丘陵の北東部標高20m付近に位置しており、工場用地として利用されていた。

遺構と遺物：奈良時代の土壇1基、ビットが検出された。土師器片、須恵器片が出土した。

調査後措置：検出された遺構については本調査を実施後、工事実施。

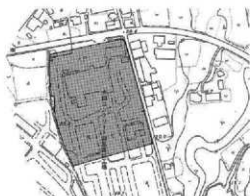


Fig.50 大塚遺跡(3) (1/5,000)



PL.47 作業状況

H14-15

遺跡名：三上遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：共同住宅建設

工事面積：972㎡

調査面積：90㎡

調査時期：平成15年3月18日

立地と環境：三上遺跡は町中南部の上峰町大字坊所字三上、西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、

目途原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。本町三上地区と三田川町にまたがる目途原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は目途原丘陵の中央部標高12m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事实施。



Fig.51 三上遺跡(2) (1/5,000)



PL.48 No.1試掘溝

VII. 平成15年度の調査

Tab.5 平成15年度 町内遺跡確認調査一覧表

No	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	日蓮原古墳群	上峰町大字坊所字三上地内	陸上自衛隊日蓮原駐屯地	駐屯地内施設整備工事	20,000	14	平成15年6月5日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中	
						81	平成15年7月4日	古墳の周溝が検出された。	工事実施中	
2	外記遺跡(1)	上峰町大字坊所字二本谷2501番地6	大塚不動産	既存建設撤去及び整地	1,249	40	平成15年10月3日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済み	
3	周知外 下米多地区	上峰町大字南半田字五本杉1235番地1, 1235番地2, 1235番地3, 1240番地1, 1240番地2, 1241番地1, 1241番地2, 1241番地3, 1241番地5, 1241番地6, 1248番地	上峰町	町営集合住宅建設	8,855	572	平成15年12月8日 平成15年12月9日 平成15年12月10日 平成15年12月11日 平成15年12月12日 平成15年12月15日 平成15年12月16日	遺構・遺物は検出されなかった。	16年度工事予定	
4	杉寺遺跡	上峰町大字坊所字杉寺1351番地1	個人	共同住宅建設工事	480	50	平成15年12月19日	奈良時代のものと考えられる住居跡、土壇などが検出され、土師器、須恵器片が出土した。	工事未着手	
						150	平成16年1月6日 平成16年1月7日 平成16年1月8日	住居址11軒、土壇9基ほか、ピットなどが検出された。土師器、須恵器が出土した。	基礎工法変更の上、検出された遺構は盛土保存。	
5	四本谷遺跡	上峰町大字堀字四本谷1903番地105	個人	共同住宅建設工事	1,055	90	平成16年1月28日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中	
6	周知外 下津毛地区	上峰町大字坊所字五本谷1848番地1, 1852番地1, 1853番地1	個人	共同住宅建設工事	2,341	60	平成16年2月23日 平成16年2月24日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中	
7	外記遺跡(2)	上峰町大字坊所字二本谷2502番地1	個人	共同住宅建設工事	1,047	90	平成16年3月18日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事未着手	



Fig.52 平成15年度 確認調査地位位置図 (1/50,000)

H15-1

遺跡名：目達原古墳群

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：陸上自衛隊駐屯地内施設整備工事

工事面積：20,000㎡

調査面積：95㎡

調査時期：平成15年6月5日、7月4日

立地と環境：戦時中の陸軍飛行場建設までは本町中西部から三田川町にまたがる目達原丘陵一帯



Fig.53 目達原古墳群 (1/5,000)

には、上のびゅう塚古墳（陵墓参考地 都紀女加王墓）、大塚古墳、古稲荷塚古墳、稲荷塚古墳、塚山古墳などの前方後円墳をはじめとする大小の古墳が点在し、目達原古墳群を形成していたが、現在は上のびゅう塚古墳を残し、ほとんどの古墳が姿を消した。調査対象地区は、目達原丘陵の基部東側標高17～18m付近に位置し、駐屯地の一部として利用されており、地区内には古稲荷塚古墳がかつて所在していた。

遺構と遺物：平成13・14年度の確認調査で検出された古稲荷塚古墳の周溝と推測される周溝について後円部の規模を確認するための追跡確認調査を実施した。その結果、これまで確認していた後円部の周溝の一部と対応する周溝を確認し古稲荷塚古墳と推測される前方後円墳の規模が確認された。

調査後措置：検出された古墳の周溝については盛土保存し、工事実施。



PL.49 NaF試掘溝 古墳周溝検出状況

H15-2

遺跡名：外記遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字二本谷

工事内容：既存宅地整地工事

工事面積：2,224㎡

調査面積：90㎡

調査時期：平成15年10月3日

立地と環境：外記遺跡は町中部の上峰町大字坊所字二本谷に所在し、下津毛丘陵の基部付近を占有

する弥生時代から中世に及ぶ集落、墳墓遺跡である。調査対象地区は下津毛丘陵の基部標高16m付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.54 外記遺跡(1) (1/5,000)



PL.50 作業状況

H15-3

遺跡名：周知外 下米多地区

調査地：上峰町大字前牟田字五本杉

工事内容：町営集合住宅建設工事

工事面積：8,855㎡

調査面積：572㎡

調査時期：平成15年12月8～12日、15、16日

立地と環境：調査対象地区は町南西部の上峰町大字前牟田字五本杉に所在し、井柳川東岸の沖積地

標高4m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.55 周知外 下米多地区 (1/5,000)



PL.51 作業状況

H15-4

遺跡名：杉寺遺跡

調査地：上峰町大字坊所字杉寺

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：480㎡

調査面積：500㎡

調査時期：平成15年12月6日、平成16年1月6～8日

立地と環境：杉寺遺跡は上峰町大字坊所字杉寺に所在す

る弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡で、町

中南部の現上坊所集落が占有する坊所丘陵西部に位置している。調査対象地区は坊所丘陵の西部標高9m付近に位置しており、これまで畑として利用されてきた。

遺構と遺物：奈良時代の住居址11軒、土壇9基ほか、ピットなどが検出された。土師器、須恵器が出土した。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存について協議を行ったが、工事中止。



Fig.56 杉寺遺跡 (1/5,000)



PL.52 遺構検出状況

H15-5

遺跡名：四本谷遺跡

調査地：上峰町大字堤字四本谷

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：1,055㎡

調査面積：90㎡

調査時期：平成16年1月28日

立地と環境：四本谷遺跡は町中北部の上峰町大字堤字四

本谷に所在し、二塚山丘陵上に位置する弥

生時代の甕棺墓群を主体とする墳墓遺跡である。町北部の山麓部から本町堤地区に派生する二塚山丘陵は先年の工業団地造成に伴い弥生時代から古墳時代にかけての墳墓が多数検出されている。調査対象地区は二塚山丘陵の南東部標高22m付近に位置しており、現況は原野で竹などが茂っていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.57 四本谷遺跡 (1/5,000)



PL.53 №2試掘溝

H15-6

遺跡名：周知外 下津毛地区

調査地：上峰町大字坊所字五本谷

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：2,341㎡

調査面積：60㎡

調査時期：平成16年2月23、24日

立地と環境：調査対象地区は町中央の上峰町大字坊所字

五本谷に所在し、下津毛丘陵の一支谷の谷

底水田部標高10m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.58 周知外 下津毛地区 (1/5,000)



PL.54 作業状況

H15-7

遺跡名：外記遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字二本谷

工事内容：既存宅地整地工事

工事面積：1,047㎡

調査面積：90㎡

調査時期：平成16年3月18日

立地と環境：外記遺跡は町中部の上峰町大字坊所字二本谷に所在し、下津毛丘陵の基部付近を占有

する弥生時代から中世に及ぶ集落、墳墓遺跡である。調査対象地区は下津毛丘陵の位置支谷に面した斜面標高15～18m付近に位置しており、これまでは畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

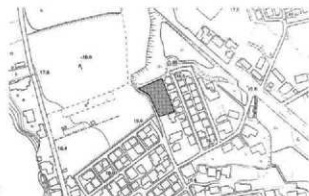


Fig.59 外記遺跡(2) (1/5,000)



PL55 作業状況

報 告 書 抄 録

ふりがな	かみみねちょうないいせきかくにんちょうさIII							
書名	上峰町内遺跡確認調査III							
副書名	上峰町内における開発行為に伴う埋蔵文化財確認調査報告書 ——平成11年度～平成15年度——							
巻次								
シリーズ名	上峰町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第34集							
編著者名	原田 大介							
編集機関	上峰町教育委員会							
所在地	佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4 上峰町民センター内 Tel 0952-52-3833/Fax 0952-52-3888							
発行年月日	2012年3月26日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ′	東経 ° / ′	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上峰町内遺跡	佐賀県三養基郡 上峰町一円	41345				1999. 4. ～ 2004. 3		町内における各種 開発行為
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
町内遺跡	集落跡 墳墓跡	弥生時代 古墳時代 奈良・平安 時代 中世	竪穴式住居跡 掘立柱建物跡 溝跡・土壇		弥生式土器 土師器・須恵器・埴輪 中世土器			



上峰町文化財調査報告書第34集
上峰町内遺跡確認調査III
 平成24年 3月12日 印刷
 平成24年 3月26日 発行

編集 上峰町教育委員会
 発行 佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4
 印刷 大同印刷株式会社
 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20

